

| | |
|--------|---|
| 第 1 回 | <p>テーマ：科目のオリエンテーションおよび健康障害をもった子どもの事例検討 1</p> <p>オリエンテーション後、事例紹介と今後の進め方について解説する。</p> <p>担当：樋口由貴子</p> |
| 第 2 回 | <p>テーマ：事例検討 2</p> <p>提示された事例について、自己学習した知識からアセスメントに必要な情報収集を行い、患児の状態の把握をする。</p> <p>担当：樋口由貴子、藤本奈緒子、永野英美</p> |
| 第 3 回 | <p>テーマ：子どものケアに必要な看護技術 1</p> <p>主に安心・安全な環境を調整する技術について解説する。</p> <p>担当：樋口由貴子</p> |
| 第 4 回 | <p>テーマ：子どものケアに必要な看護技術 2</p> <p>主に酸素化、検査などの援助について解説する。</p> <p>担当：樋口由貴子</p> |
| 第 5 回 | <p>テーマ：子どものケアに必要な看護技術 3</p> <p>主に計測とバイタルサインの測定の方法について解説する。</p> <p>担当：藤本奈緒子</p> |
| 第 6 回 | <p>テーマ：小児看護技術演習 1</p> <p>バイタルサインの測定、身体計測、救急蘇生法など小児看護に必要な技術を、子どものモデル人形等を使って実施する。</p> <p>担当：樋口由貴子、藤本奈緒子、永野英美</p> <p>第 6 回と第 7 回は連続して行う。</p> |
| 第 7 回 | <p>テーマ：小児看護技術演習 2</p> <p>バイタルサインの測定、身体計測、救急蘇生法など小児看護に必要な技術を、子どものモデル人形等を使って実施する。</p> <p>担当：樋口由貴子、藤本奈緒子、永野英美</p> |
| 第 8 回 | <p>テーマ：事例検討 3</p> <p>アセスメントを一部学生が発表後、解説をする。</p> <p>担当：樋口由貴子、藤本奈緒子、永野英美</p> |
| 第 9 回 | <p>テーマ：小子どものケアに必要な看護技術 3</p> <p>主に排泄、栄養などの技術について解説する。</p> <p>担当：永野英美</p> |
| 第 10 回 | <p>テーマ：事例検討 4</p> <p>グループでアセスメントを共有し、アセスメントから看護問題を抽出する。</p> <p>担当：樋口由貴子、藤本奈緒子、永野英美</p> |
| 第 11 回 | <p>テーマ：テーマ：事例検討 5</p> <p>事例の全体像を把握し、健康問題を導き出し、計画を立案する。計画には必ずプレパレーションを入れる。</p> <p>担当：樋口由貴子、藤本奈緒子、永野英美</p> |
| 第 12 回 | <p>テーマ：事例検討 6</p> <p>事例の看護計画を立て、プレパレーション発表会の準備・練習をする。</p> |

| | |
|-----------------------------------|---|
| | <p>担当：樋口由貴子、藤本奈緒子、永野英美</p> <p>第 12 回と第 13 回は連続して行う。</p> |
| 第 13 回 | <p>テーマ：事例検討 7</p> <p>事例の看護計画を立て、プレパレーション発表会の準備・練習をする。</p> <p>担当：樋口由貴子、藤本奈緒子、永野英美</p> |
| 第 14 回 | <p>テーマ：事例検討の発表 1</p> <p>看護計画の一部のプレパレーション場面を発表する。</p> <p>発表後はディスカッションする。</p> <p>担当：樋口由貴子、藤本奈緒子、永野英美</p> <p>第 14 回と第 15 回は連続して行う。</p> |
| 第 15 回 | <p>テーマ：事例検討の発表 2</p> <p>看護計画の一部のプレパレーション場面を発表する。</p> <p>発表後はディスカッションする。</p> <p>まとめ</p> <p>担当：樋口由貴子、藤本奈緒子、永野英美</p> |
| テキスト | <p>中野綾美、ナーシンググラフィカ 小児看護学 1 小児の発達と看護、メディカ出版、2023.</p> <p>中野綾美、ナーシンググラフィカ 小児看護学 2 小児看護技術、メディカ出版、2023.</p> |
| 参考図書・ 教材／データ ベース・ 雑誌等の紹介 | <p>丸光恵他；小児看護学[2] 小児臨床看護各論 第 15 版、医学書院、2025</p> <p>その他の参考図書については、授業中に適宜紹介します。</p> |
| 課題に対する フィード バックの 方法 | <p>小テストは採点後に返却、個人ワークはコメントをつけて返却します。</p> |
| 学生へのメ ッセージ・ コメント | <p>健康障害をもった子どもと家族を理解し看護過程を展開するには、既習の専門教育科目（看護を学ぶための基礎、看護実践の基本）を十分に理解しておく必要があります。振り返り学習しておいてください。</p> <p>演習に関しては事前学習を十分に行い、準備を万全にして演習に臨んで下さい。また前半は個人ワークを中心に進めるため、事前学習や復習をしっかりと授業に臨んでください。後半はグループワークを行う為、自分の意見や考えを準備し、グループワークに参加ください。この科目は、3 年後期から開講する小児看護学実習に向けた基礎的な学びの総括として位置付けている科目ですので、疑問や不明な点などは、積極的に声を出してしっかり参加して学習を深めていってください。</p> <p>課題提出についての詳細は、講義内で説明しますが、計画的に取り組み他の科目と両立できるようにしてください。</p> |

